

Rotary

Rotary Opens
Opportunities

ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度 ヘルパー・クナーク RI会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2020年12月24日(3376例会)(創立70周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3290

■呉RC 2020～2021年度テーマ 「調和と未来への継承」

会 長 長 尾 正 嗣
副 会 長 長 行 事 義 人 幹 事 石 田 直 樹 会長エレクト 福 田 多 喜 二
直前会長 志々田幸治 会 計 畦 淳 造 会場監督 中 崎 誠

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

次週のメインプログラム

親睦活動委員会 担当例会

新年例会・年男「丑」卓話

第3375例会記録【12月17日(木)】

- 【プログラム】 ◇会員卓話…廣江裕治君
・生い立ち ・家族 ・学歴 ・広島銀行入行後の経歴 ・広島銀行の案内 ・「ほめる達人になる」
褒めると人も組織も活性化する。価値を発見して伝えることの大きさ。
- 【出席率】 前々回 87.88% 今回 81.25% (会員69名・欠席12名・免除5名)
- 【他クラブ出席者】 ◇海生(知)君(12/14北海道2500ロータリーEクラブ) 1名
- 【欠席者】 ◇海生(知)・仮井・坂田・佐藤・武田(信)・武田(介)・寺坂・中河原・堀口・増岡・三宅・
森澤君 12名
- 【出席免除者】 ◇大矢・奥川・海生(孝)・武田(保)・三木君 5名
- 【幹事報告】 ◇(公財)ロータリー米山記念奨学会…ハイライトよねやま 249
◇RI第2710地区2019-20年度 晝田ガバナー…2019-20年度地区活動報告書(配布)
◇RI第2710地区事務局…地区事務局テレワーク対応と年末年始について。12/14(月)～12/25(金)
テレワーク対応。12/26(土)～1/4(月)休業。1/5(火)～テレワーク・時差出勤予定。E-mailでのご連絡のみの対応となります。
◇広島西ロータリークラブ…新型コロナウイルス感染防止のため、クラブ定款第7条第1節(d)項(3)
により12/24(木)例会取消。
◇広島中央ロータリークラブ…新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、12/14(月)・
12/21(月)例会取消。
◇西条ロータリークラブ…休会・日時変更のご案内。12/24(木)コロナウィルスの影響により例会取消。
12/31(木)1/7(木)は休会。1/12(火)は新年3クラブ合同例会(安全祈願祭)の為、18:30～グランラ
ッセー東広島へ変更。
◇呉東ロータリークラブ…例会取消・休会のお知らせ。12/16(水)、12/23(水)定款第7条第1節(d)
(3)により、例会を取消。12/30(水)例会休会。定款第7条第1節(d)により例会休会。(メーク
アップは受付不可)
◇呉南ロータリークラブ…例会取消・休会のご案内。呉市内においての新型コロナウイルス感染者
数が増えたことをふまえ、呉南RC定款第7条第1節(d)取消。項目にて12/15(火)・
12/22(火)の例会を取消しと致します。12/29(火)・1/5(火)例会休会。
- 【委員会報告】 ◇荒川誠親睦活動委員長…親睦活動委員会担当例会の御案内(配布)忘年家族例会を変更して通
常の例会時に開催。向井さんの美味しい温かいお米のお食事とご家族へのお土産を御用意。
◇大之木精二国際奉仕委員長…米山学友会賛助会員入会の御案内。並びにロータリー財団への寄付
協力の御案内。
◇高橋征司出席・プログラム委員長…11月の例会出席報告 出席率85.86%。
7月から11月までの暫定出席率87.86%。

【S.A.A】◇事業所設立記念日の御紹介

◎ニコニコ基金金額 13,000円(累計金額 844,500円)



私の仕事と職業奉仕



中国電力ネットワーク株式会社 長谷 雅登

歴史ある呉RCに入会させていただき、早いもので1年半が経過しました。この間、ロータリアンとしての根幹である「職業奉仕」の理念についても、多くの先輩方から学ばせていただきました。

私自身、人様より少々長めのモラトリアムを頂き、バブルの申し子として平成3年に23才で実社会へデビューした身ですが、若い頃を顧みれば、仕事に向かう姿勢は、電力業界は社会に役立つ仕事として選んだつもりでも、どこかしら惰性に流されている感じで、自分の仕事を通じて社会に奉仕する意識は希薄だった気がします。

そんな私にとって、仕事に対する倫理観の大きな転機となったのは、やはり2011年の東日本大震災でした。当時、鳥根県松江市にある鳥根原子力発電所に勤務していた私は、あの日、発電所内の喧騒の中で、テレビ画面を通じてあの信じがたい光景を見ていました。東北地方が被害甚大との知らせに、直ちに女川原子力発電所（東北電力）が心配になり、速やかに稼働停止したことをホームページで確認して、少しほっとしたのを覚えています。夜になり、あまり意識していなかった福島第一原子力発電所へ多くの電源車が向かっているとの情報が入り、原子力発電所にとって生命線である非常用電源をすべて失い重大事故が発生したことを知り、翌日からは福島へ応援者を派遣する準備に忙殺されることとなりました。

自分自身は、多少落ち着きを取り戻しつつあった7月～8月に福島へ応援に入りました。その当時は、ある程度、放射線量も下がっていたため、一時帰宅を許された被災住民の方への放射線測定等の作業に1ヶ月間ほど従事しました。茹だるような30℃を超える屋外で、タイベック（宇宙服のような防護服のこと）を着ての作業は、まさに地獄のようでした。その時見た海岸線から何kmも内陸の道路の真ん中に鎮座する漁船、野生化し痩せ細った牛、盗難者に荒らされ放題の住宅などの光景は、とても忘れられるものではありませんが、中でも被災住民の方に「電力会社の者は、放射能を持って帰ってくれ！」と浴びせられた厳しい言葉は特に印象深く残っています。

太平洋戦争というエネルギー源を求めた悲劇を経て、更に二度に亘るオイルショックを経験した日本産業の発展を長年に亘って縁の下で支え続け、貢献してきた発電所も一度事故を起こせば、人々を苦難に陥れる張本人になることを実感し、大きなショックを受けました。この先も、この業界に身を置く以上、原子力災害はもちろん地球温暖化防止、経済性といった多くの難問に立ち向かい、何もエネルギー資源を持たない日本の将来の人々に少しでも安定したエネルギーを継承していくことが、今を生きる私たち電力会社社員の最大の「職業奉仕」だと信じて、残された会社人生を全うしていきたいと思っています。